

大障教ニュース

大阪府立障害児
学校教職員組合
大阪市天王寺区
東高津町7 11
府教育会館704号
(TEL)6765-8904
(FAX)6765-8905

青年フェスタに向け、プレレポート発表会！ 「青年教職員のための実践力UP！講座」

1月20日、青年教職員のための実践力UP！講座として、2月の青年フェスタに向けた「プレフェスタ」を社会福祉会館で開催しました。今年度の青年フェスタのレポート交流会のテーマは、「私が大切にしていること」。プレフェスタでは、青年フェスタ1日目のレポート交流会、特別支援教育分科会で発表予定のレポーター4名を含め9名が参加し、当日に向けてレポート報告を行い、内容についての意見を交流しました。



熱心に話を聞く参加者

1本目は、感覚と音楽の間で、肢体不自由支援学校での音楽の実践レポートでした。さまざまな音楽や楽器に触れることで子どもたちの体がゆったりとほぐれ、「こんな風に楽器を鳴らしてみたい」「友だちと同じ演奏がしてみたい」と心が変化していく様子を発表されました。

2本目は、学級学年運営で大切にしていること、知的障害支援学校小学部の実践レポートでした。小学部2年生21名という学年で、大人数ならではの苦労や、教員間で日々の子どもの様子を伝えあうコミュニケーションの大切さを発表されました。

3本目は、MY RULES先生として私としてどうありたいか、2年目の先生のレポートでした。先生として働く中で、自分が大切にしているRULESや、先生としてどうあるべきか、ではなく、「どうありたいか」を語られました。

4本目は、愛着障害の生徒



活発に意見交流しました

参加者の感想
各レポートで共通する話もあれば、個々にポイントも違って楽しい！おもしろい！レポートが聞けてよかったです。楽しかったです。盛り上がった交流になりました。もっといろいろな人のレポート発表ができる場があると、元気になれると思いました。

レポート発表の練習になりました。来た人が後で振り返って見たときに、どんな内容だったかがわかるようにすることが大事だなと思いました。

実際自分のやっていることや、他の学校でやっていることがリンクしました。いろいろな話を聞いて、自分をもう一度振り返ることができました。

と向き合って、知的障害支援学校中学部での実践レポートでした。入学当初は対教師暴力や授業の抜け出しなど、様々な問題を抱えていた子どもたちが、学年の教師集団との関わりの中で少しずつ変化をみせていく様子と、子どもの心によりそつ大切さを発表されました。

それぞれの発表に、共感の声が上がったり笑いが起こったりと、大いに盛り上がりました。また、青年フェスタでの本番に向け、アドバイスを、ここがもっと知りたいといった意見も交わされました。ぜひ2月17日はレポート交流会にご参加ください！

第29回青年フェスタ
2月17日(土) 18日(日)
箕面観光ホテルにて

レポート交流会の他、記念講演、実技講座など盛りだくさんです。部分参加もできます。ぜひご参加ください！
問い合わせ・申し込みは大障教青年部まで
TEL 06-6765-8904 FAX 06-6765-8905

大障教ホームページアドレス <http://www1a.biglobe.ne.jp/fushou/> Eメール アドレス : fushoukyou_1@mtb.biglobe.ne.jp

書記局のひとりごと

昨年12月、広島高裁が伊方原発(愛媛県)の運転差し止めを命じる決定を行いました。その理由の一つは、熊本県の阿蘇山が巨大噴火した場合阿蘇から160km圏内にある伊方原発に火砕流が達する可能性が否定できないことです。

巨大噴火とは、地下のマグマが一気に噴出して広範な地域が火砕流で埋め尽くされ、火山灰が日本列島全体に降り積もるような噴火です。6千年〜1万年に1回発生すると言われていますが、「今の火山学では予知不可能」と専門家は指摘します。

広島高裁は、火砕流が伊方原発に及ぶ可能性が「十分小さいと評価されない」として、原発立地に適さないと判断しました。この決定から見ると、そもそも原発立地に適さないのは伊方だけではありません。巨大噴火の可能性のある火山から160km圏内にある原発は、泊(北海道・東通原(青森県)・島根(島根県)・玄海(佐賀県)・川内(鹿児島県)があり、これらも立地不適となる可能性があります。

また、広島高裁は、巨大噴火より小さい噴火の場合でも、火山灰が原発の電気設備や冷却システムに損傷を与える危険も指摘しました。原子力規制委員会も、火山灰想定が過小であったことを認め、大きく引き上げる決定をしました。これにより、全国の原発で火山灰想定が過小である可能性が出ています。

1月23日に、1500年ぶりに起こった草津白根山(群馬県)の噴火は、近年の火山活動が無い中で、気象庁も想定していませんでした。全国に火山を抱える日本列島では、原発立地そのものが大きなリスクだと言えるでしょう。

全国障害児学級・学校交流集会に参加して感想その1)

第17回全国障害児学級・学校交流集会が開催され、大障教職場からも、104人が参加しました。参加者から感想が寄せられていますので、大障教ニュースの紙面で紹介していきます。

生徒一人ひとりが人生の主人公

支援学校に初任として配属され1年、生徒との関わりの中で、自分の力不足を実感する毎日でした。そんな現状をなんとか脱却したいと思い、今回の学習交流集会に参加させていただきました。

1日目の丸山啓史先生のご講演の中で、ほめ方についてのお話がありました。

定年65才制と退職金

「教職員の働き方」講座に参加しました。講師の、全教米田さんのお話で考えさせられたことは2つあります。一つは定年65才制の議論が今年国で始まること。もう一つが、退職金の額が今回の改悪で5年ごとに見直されることになったことです。定年65才制はそのまま受け入れられるはずはなく、60才定年をベースに働きたい人が働けるように声をあげることが大切であ

とで、安心できる関係が築けるのだと学びました。実践分科会では、全国の支援学校で勤務されている先生方の、貴重なお話を聞くことができました。実践報告ではどの先生方も、「生徒一人一人が人生の主人公である」ということを大切に日々の実践を行っていました。実践を聞く中で、学校生活の主体は生徒だと理解しつつも、気を抜くと自分のやりやすいように進めて

いる私に改めて気づかされました。この2日間は、本当に濃く充実したものとなり、自らを省みる良い機会になりました。今回学んだことを、これからの教育活動に活かしていきたいと思えます。

(匿名)

目的や方法を学んだ

投げることをテーマとした様々な実践方法や、なわとびを跳ぶだけでなくいろいろな目的で使用する方法をすべてよかったです。ありがとうございました。

(交野支援学校四條畷校分会)

森谷淳



橋岡正樹

(光陽支援学校分会)

知りたいことを知ることができたとても有意義な一日でした。

分会名：だいせん聴覚高等支援学校分会

分会長：横山晃彦

障害種別：聴覚障害

児童生徒数：72人

どんな分会？：分会独自の最大のイベントは、4月の土曜日に開催する大仙公園での新歓バーベキュー大会です。新転任の方々にとって、手話コミュニケーションをはじめ未知なことの多いだいせんですが、早くなじんでその力を発揮していただけるようにと続けてきました。一方、ベテランにも家族ぐるみで参加できる楽しみとなっています。

大障教のバレーボールは、学校行事と重なり参加できないことが多いですが、秋のソフトボールは去年の初勝利を受けて、「次も！」と希望に燃えています。また、府高教の冬の駅伝大会には初参加からの三連覇の後、去年に続く連覇を今年見事に果たしました。

世界遺産国内推薦候補となった大仙古墳に隣接した校地に出没する動物たちは豊富で、ヤモリは序の口、蛇、アライグマ、亀、スッポンと出るわ出るわ…。若い先生方が年々増える中、日々の生徒たちの授業の他、進学、就職、資格取得、クラブ活動を始めたとした様々な指導にみんなで汗を流しています。

恒例の分会旗開きを行いました！ 堺支援学校分会



1月9日の始業式後の休憩時間に、分会の旗開きを行いました。夏休み等にいつもお弁当を頼んでいる大衆食堂にオードブルを注文しました。クラリネットとキーボードで「over the rainbow」とチャップリンの「smile」生演奏が流れる中、学部を越えて和気藹々とした昼食会になりました。